



基本理念
私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
国立病院機構高知病院 独立行政法人

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385



NHO高知病院 院長
大串 文隆

人事異動の季節を迎え、年度末には高知病院に多大な貢献をしてくれた多くの仲間が去り寂しさは残りますが、4月から新しいメンバーを加え新年度がスタートしました。アメリカに端を発した経済不況から立ち直れず、また、トヨタ問題など我が国経済に追い打ちをかけるような問題が表面化し、社会に不安が広がっているように感じます。このような時、国民の健康を守る病院の使命は、より重大であるといえます。私達も高知病院の基本理念に忠実に、良質の医療を追及し実現させることにより、地域に信頼される病院になるという目標に到達できるものと思います。従来からの病院基本方針に加え、今年度は地域連携の充実と予防医学への積極的参加、災害医療の整備を進めたいと考えています。昨年度地域の医療機関の先生方との意見交換会を初めて実施しましたが、今年度はより病院医師の顔が見える形で交流を深めたいと思っています。連携の不備から関係の施設に迷惑をかけることのないような体制を造る必要がありますが、このためには職員一同が協力し、支えあうことが最も重要であると感じています。予防医学についての重要性は以前より指摘されており、診療の中では実践されているように思いますが、高知病院の使命である情報発信という点から生活習慣病について住民の皆さんがより詳しく理解していた

だけるように、病院フェスタを今年も企画しました。昨年実施した経験をもとに、より有意義なフェスタが開催されることを期待しております。予防医学という点から特筆すべきは、4月から稼働し始めた乳房X線撮影装置Amuletの導入です。従来の機種では描出が困難であった症例でも高画質の画像として検出できる機能を装備しており、この機種導入を機に乳癌検診も再開いたしました。乳癌早期発見に貢献できるものと考えております。災害医療についてはDMATチームを立ち上げ、起こるといわれている災害に対応できるようにしたいと考えています。職員の皆さんには、QC活動への積極的参加はもとより、各部署でそれぞれの立場でアイデアを出し合い病院を活性化していただきたいと思います。年末、実施した研修会で参加者が発案した3m挨拶やオアシス運動も院内で実践されており、今年度も実りある研修会を開催したいと考えております。政治の世界では、私達の国立病院機構も独立行政法人であることから見直しの対象となっているようですが、この結果に左右されることなく、職員全てが力を合わせて国民の期待に応え得る素晴らしい高知病院にしていこうではありませんか。

最新の中四国地方初！ 乳房X線撮影装置を 導入しました

放射線科医長 小松 幸久



この度、当院に新しい乳房X線撮影装置Amuletを中四国地方で最初に導入いたしました。

乳癌は年間1万人が命を落とすとされていますが早期に発見して適切な治療を行えば十分に治る病気です。早期発見の重要な検査法としてマンモグラフィーが推奨されていますが、X線を使って乳房画像を撮影し小さい腫瘍や癌に伴う石灰化を発見する診断法です。

乳癌に伴う石灰化は非常に小さくて従来描出がかなり困難でした。FUJIFILM社製Amuletは、新方式X線検出センサーといってX線を電気信号に変換する際に電氣的なスイッチを使わず光をスイッチとして画像電気信号を効率よく読み出す方法を開発し、50ミクロンという世界最小のピッチを実現、小さな画素で微小の石灰化や癌もくっきりした高画質の画像として見つけ出すことができます。また乳房の画像はフラットパネルで撮影されるためフィルムやイメージングプレートといった交換の必要な画像記録部がないため撮影時間も短縮されました。

更に病院内の画像ネットワークにより外科診察室、放射線科読影室の5M高精細モニターを備えた乳房撮影専用ワークステーションに配信され短時間かつ精度の高い読影が可能となっています。この乳房撮

影専用ワークステーションは過去に撮られた乳房画像との比較も短時間に簡単にできるので乳房病変の時間的な変化も観察可能です。

当院が導入いたしました、この高精度高画質の乳房X線撮影装置Amuletが女性の皆様方に広く知られ、ご利用戴けるように紙面にてお伝えいたします。



第2回 健康フェスタ開催決まる！

昨年から開催している健康フェスタを今年も開催します。

今年のキャッチフレーズは、『来て みて 知ろう 私の健康... みんなおいでよ！』です。

健康フェスタでは、当院医師の健康フォーラムのほかメタボ測定、医療・服薬・栄養相談、手術室体験、バルーンアート、調剤体験、顕微鏡コーナー、バザーなど盛りだくさんのイベントを用意しています。是非いらして下さい。

日 時 平成22年6月5日(土) 10 :00 ~ 15 :00の予定
場 所 国立病院機構高知病院

第1回

NHO高知病院
活性化合同研修会に参加して小児外科 医長
佐藤 宏彦

平成21年12月23日、当院で初めてのNHO高知病院活性化合同研修会が開催されました。最初に、大串院長から「本研修会開催の経緯ならびに趣旨」、続いて事務部長から「高知病院経営の実態」というテーマの講演を聞き、当院の変化しなければいけない実情ならびに経営状況の厳しさを実感させられました。その後、篠原臨床研究部長の指示で6～7名の班に分かれ、「望ましい病院像とその実現に向けた今後の取り組み」という課題について各班で議論を行い、その結果を発表し、全体で討論する形式での研修会でした。

そこで我が班で考えた「望ましい病院像とその実現に向けた今後の取り組み」に対する報告内容について述べます。

望ましい病院像とは患者さんに選択される病院である。選択される病院であるためには、病院の特徴、診療実績などの情報公開が必要である。つまり病院のアピールである。アピールが足りないため患者さんに情報が届かず、選ばれない。その結果、評判が上がり患者数の増加につながらない。よってアピールを行う委員会を設立し、病院の特徴（売り）に

なる事柄を発掘し、メディア、講演会、広報誌、掲示板などを活用し、アピールを行うことが患者さんに選ばれる病院となり、患者数の増加、職員のモチベーションの向上、ひいては病院の活性化につながるのではないかと結論に達しました。

最後にアピール実現に向けた活動は大変であり、少しずつ地道に行うことが成功につながると思います。この意見に賛同していただける方はアピール委員会の一員となって高知病院を共に盛り上げましょう。宜しくお願いします。



医療安全管理室

第49回 高知病診連携フォーラム 「医療安全研修」 — 安全な輸血について —



医療安全管理室 森山 万智

平成22年2月24日(水)18:00~19:30 当院の地域医療研修センターにおいて、「安全な輸血について」をメインテーマに、医療安全研修を開催いたしました。講師に高知県赤十字血液センター 学術担当主査 認定輸血検査技師 岡田士郎氏と当院臨床検査技師 森本直子氏を迎え、講演していただきました。岡田氏からは「血液製剤の取扱と輸血副作用」と題して、献血血液に関わる検査（感染症等）やその仕組み、各種血液製剤の特徴、取扱上の遵守事項、輸血事故防止及び副作用の種類および早期発見による対処について、また、森本直子氏からは「輸血療法マニュアルに沿った安全な輸血」

と題して、輸血事故防止の観点から改定を行った当院のマニュアルの特徴や事故防止の具体的方法について学びました。地域の病院からは46名（医師、看護師、検査技師）の参加をいただき、高知県で共に活動する病院職員としての質問や情報交換を行うことができました。地域での病院連携の重要性を実感できる研修となりました。



医療安全と感染管理の 合同研修を行いました

医療安全管理室・ICT
感染管理認定看護師 原 昭恵

平成22年3月3日(水)17:30~18:30「輸液プラネクタからの感染リスクを防ぐ」「シリンジの間違った取扱いを知り安全を守る」をテーマに模擬体験型研修を行いました。“医療機器には必ず添付文書に適正使用のための情報が記載されているが、添付文書に記載されている注意事項の中から見落とし、取扱いを間違えてしまうと事故に繋がる”との考えから、日頃あたりまえのように使っている汎用医療機器について、その構造や仕組みから取扱いの盲点に着目し、理解することで、さらに安全対策を強化することを目的に開催いたしました。看護師・臨床工学技士の参加があり、にぎやかに研修を展開することができました。日程上の制約もあり、沢山の職員の参加とはなりませんでしたが、しかし、模擬体験

で学んだことは、参加者の方々が現場へ持ち帰り伝えやすいという利点があり、研修内容を現場全体に浸透させる有効な方法であったと感じています。



結核について

前 診療部長 元木 徳治



最近、日本人の4人に1人は結核に感染しているため、結核を忘れないでとのメッセージを送るビートたけしをテレビで放映している。以前は「国民病」といわれた結核もストレプトマイシン、イスコチン、リファンピシン等の薬剤の使用、栄養状態の改善、国民・患者個々が一体となった対策努力のおかげで徐々に罹患率の減少がみられた。

昭和20年前半には500を超えていた罹患率も平成20年には20を切るまでに減少しており、高知県でも平成20年において結核罹患率は17.07になっている。

しかし最近、結核患者で高齢者の割合の増加が著明で、若者で流行していた昔と状況が異なってきている。特に低栄養、糖尿病、腎不全、易感染状態（ステロイド、抗リウマチ薬の使用）で結核を発症している高齢者の割合が多くなっている。そして結核に対する免疫が低下し発症する粟粒結核（結核菌の敗血症）の割合も増加している。

今でも結核は最大級の感染症であり、結核は減少しているが、過去の病気ではなく、忘れてはならない病気の一つである。受診の遅れ、診断の遅れで不幸な患者を作らないことが大切で、国民と医療従事者がともに、まだ結核は存在することを忘れず、2週間以上続く咳、痰、発熱、食欲不振等に注意し、早めの受診に努めるとともに、その様な症状の患者さんがいればまず結核を疑い、結核診断のための検査を行うことが大切だと思う。

第2回副看護師長会成果発表会

地域医療連携室 医療相談員 長浦 英世



2月3日、第2回目となる副看護師長会の成果発表会がありました。この日は節分ということもあり看護師長会より節分用の豆や鬼のお面など、楽しい差し入れをいただきました。インビテーションボードに鬼のお面を飾り付け、和やかな雰囲気の中発表会を取り行うことができました。

われわれ副師長会は総勢28名の大所帯です。そのうち認定看護師養成研修参加者1名を除く27名が、おのおの自己の1年間の活動を振り返り発表を行いました。予定された日程の関係上、時間外の17時15分から19時40分というタイムスケジュールの中、1年間の活動の成果を僅か3分でいかに効果的にプレゼンテーションできるかが個々の力の見せ所でした。演題別に『医療安全』『教育』『業務改善』『専門分野』『新たな取り組み』の5群に分類し、看護師長に座長をお願いしました。

前年度は3分の壁に阻まれ時間内にまとめることができなかったり、伝えたい内容がうまくまとめられなかったりとわれわれも苦戦しましたが、今年度

は座長の采配のよさでほぼ時間内に全プログラムを終えることができました。前年同様プレゼンの難しさを痛感しつつも、前年度に比べ少し成長した姿をみせることができたのかなと自負しています。

今年で2回目となるこの発表会ですが、この演題の中から医療マネジメント学会への参加をはじめ、院外にもどんどん活動内容を発信していく機会を得ていきたいと考えます。

最後になりましたが、本会にご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

研究授業を終えて

高知病院附属看護学校 教育主事 秋本 洋子



平成22年2月12日に、国立病院機構附属看護学校3施設の教育主事・教員・専任実習指導者5名と母体病院である高知病院の看護師長・実習指導者6名を迎えて、「成人看護方法論・演習」の公開研究授業を行った。

新カリキュラムでは演習の強化が主な改正点の一つとなっている。当校では旧カリキュラムでも術後急性期の事例を用いた看護過程の展開を教授していた。しかし、臨地実習では看護実践に主体的に参加するまでには至らず、急性期実習での実践力の育成には課題があった。そこで、より臨床実践に近い状況を想定した学習ができるよう術後1日目の早期離床への援助をテーマとし、情報収集から離床が可能であるかの判断、疼痛緩和を考慮しドレーントラブルなどのリスクを回避する援助方法、離床時の合併症の観察、回復意欲を促進する説明の方法などを学習内容として授業を展開した。まず、企画課職員による模擬患者と教員による看護師が登場するビデオ（約10分）を作製し、送りや患者訪問時の観察の様子から、学生が必要な情報を収集し、その後各グループに用意されたベッドに移動して、実際に患者に挿入されていたドレーンや点滴などを学生の身体に装着し、離床への援助を体験しながら計画立案するというプロセスをとった。学生はドレーンの存在を忘れて反対側のベッドサイドに降りるよう援助するなど、

演習だから許される失敗体験や患者体験による気づきの中から多くの学びを得ていた。

授業評価として、学生からは実習に役立ちそう、他の演習の授業でも同じように、臨床がイメージできる授業をしてほしい。指導者からは学生がどんなところで躓き、気づき、学んでいくのかそのプロセスが理解できた。他校の教員からは演習の進め方などより効果的な授業のための提案や教育方法として取り入れたいという意見もあった。ビデオは出演者の了解を得て、研究授業への参加校に提供する予定であり、国立病院機構附属看護学校で教材や教育方法の共有ができればと考えている。研究授業を行った2年目の教員は試行錯誤の準備期間と緊張しつつも学生と共に創りあげた授業に“苦っ楽しい”専任教員としての充実感を得た体験となった。



ビデオ



ロールプレイ

地域医療連携室だより

新採用医師の紹介



呼吸器科 阿部 秀一

4月1日より当院に勤務させていただいております阿部秀一（あべ しゅういち）と申します。卒業後、故郷の徳島大学病院呼吸器・膠原病内科に入局し、初期研修を含め4年勤務しておりました。当院への転勤を機に、改めて初心にかえり医療技術を学ぼうと考えています。

生まれは徳島ですが小さい頃は父の仕事の関係で高松や高知にも住んでいたこともあります。当院はその昔、父も勤務したことがあり、当時幼稚園児の私も病院へ向かう父を見送っていた、という縁があったそうです。古い話でほとんど覚えていないのですが、この間父が高知に来ましたが「30年前と比べてすっかり変わったねえ」と申しておりました。

当院は呼吸器科の医師が多く診療されており、診療や研修の環境としては非常に恵まれていると考えております。徳島大学の医局や当院の先生方のご配慮でこのような貴重な勤務ができることを幸せに思うと共に、地域医療の面で社会貢献できるように邁進する所存です。何卒宜しくお願い致します。



消化器内科 板垣 達三

はじめまして。4月から当院へ転勤して参りました、消化器内科の板垣達三（いたがき たつぞう）です。出身はお隣の徳島県の海岸沿いにある阿南市です。平成14年に徳島大学医学部臓器病態治療医学（旧第2内科）に入局し、同大学院、香川県立白鳥病院、徳島県立三好病院を経て、本年度より高知病院消化器内科へ勤務となりました。高知での生活は今回が初めてですが、中学時代に司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を読んで以来、一度は高知に住んでみたいという気持ちがありました。テレビ等でも全国的に注目され

ているこの時期に高知での生活が実現できて大変喜んでおります。しかし来てまだ日が経っていないので言葉にはまだ慣れていなくて、もっか高知弁を勉強中です。現在は病院近くの官舎に住んでいます。どちらかという和食党なので高知の海産物など楽しみですが、梅干しと納豆は子供の頃から大の苦手です。克服できておりません。趣味は以前は海釣り等ありましたが、最近は読書、テレビでのスポーツ観戦くらいです。アルコールは飲みますがビールまで、日本酒やワイン、ウイスキーなど度数の強いものは苦手です。

病院スタッフ皆様の助けもあり、現在の環境に少しずつ慣れてきましたが、これからはもっと機敏に動けるように努めて参ります。消化器内科の医師として未熟な点などが多々あるとは思いますが、少しでも患者様や御家族の気持ちに応えられますよう頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



外科 大塚 敏広

4月1日より当院で勤務させていただいております大塚敏広（おおつか としひろ）です。

生まれは高知県高知市です。その後、父の仕事の都合により、四国4県を時計回りに1周しました。両親はともに徳島県出身で、最終的に徳島県に落ち着き、平成9年に徳島大学を卒業し、徳島大学第一外科（現 臓器病態外科）に入局しました。徳島大学大学院卒業後、J A徳島厚生連阿南共栄病院、健康保険鳴門病院、愛媛県立中央病院に勤務しました。そして本年度より当院に赴任しました。最初に、この病院を訪れたときに、なんて立派できれいな建物なんだろうと思いました。病室も手術室も広く、明るく、清潔感にあふれ、非常にいい環境で仕事をさせていただき感謝しております。

家族は、妻と長男（5歳）、長女（2歳）の4人です。休日には家族で、高知県の名所、観光地（はりまや橋、桂浜、日曜市etc）を訪れ、楽しい時間を過ごしております。本年は、「龍馬伝」の影響も

あり、高知は“匂”な場所で活気に満ちあふれ、元気をたくさんいただいております。

外科医としてまだまだ未熟で、皆様にもご迷惑をかけるかもしれませんが、今後も御指導の程よろしくをお願いします。



内科 篠原 静

4月より、当院で勤務させて頂いている篠原静（しのはら しずか）です。

簡単ですが、自己紹介をさせていただきます。

出身は徳島県阿波市です。香川医科大学を卒業後、徳島大学呼吸器・膠原病内科学分野に入局しました。同科での1年間の研修後は、香川県の関連病院、四万十市立市民病院、徳島大学病院を経て、一昨年には当院で1年間勤務をしていましたが、子供を授かり休職していました。子供も無事一歳を迎え、今年より職場復帰をさせて頂くことになりました。

寒いところが苦手な私にとって、高知の気候は過ごし易く感じます。海産物も美味しく、スキューバダイビングが趣味なので、長く楽しめる土地だと思っています。

子供もまだまだ手の掛かる時期ですし、私も現在第2子を妊娠中ではありますが、このような機会を頂き、仕事を続けられるのも病院長をはじめ、職員の皆様のお力添えあつてのことと、大変感謝をしています。

まだまだ未熟で至らない点もあるかと思いますが、宜しく御願ひ致します。



耳鼻咽喉科 関田 拓馬

4月1日より当院に勤務させて頂いております関田拓馬（せきた たくま）と申します。それまでは4年間香川県の高松市民病院に勤務しておりました。

4年ぶりに高知に戻ってきてまいりましたが、久しぶりに耳にする土佐弁をとてなつかしく感じております。

4年前の高知を思い出しながら過ごす日々はとてもなつかしく、また新たな発見もあり、充実した毎日です。

先日たまたま高知駅に行く機会があったのですが

新しくなった高知駅にはびっくりしました。4年前の高知駅とは全く異なり、一瞬ここはどこ？ と浦島太郎になったように感じました。

前回、高知で勤務させて頂いたところは南国市にある病院だったのですが、同じ高知県でも勤務する場所が異なるだけで街の雰囲気なども違い、やはり高知県は広いなあと感じている日々です。

高知には優しく人情味あふれる方々が多く、引越してきたばかりの私にも優しくしてくださり非常に感謝しております。僕は残念ながらお酒をたしなまないのですが、高知はお酒が好きな方にはたまらない場所だなと思います。

耳鼻科医として少しでも高知の方々のお役に立てよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしく願ひいたします。



消化器科 友兼 毅

4月1日より当院に勤務することになりました消化器科の友兼毅（ともかね たけし）と申します。以前には徳島赤十字病院 徳島大学病院 愛媛県内の四国中央病院に勤務しておりました。高知県への勤務は今回が初めてとなります。主な資格は内科認定医 循環器専門医 消化器内視鏡専門医です。現在の主な診療内容は消化器内視鏡です。早期胃癌 早期大腸癌の内視鏡治療を行っております。その他消化管出血や胆石症の内視鏡治療を行っております。その他の適応外病変につきましては外科に紹介して手術治療を行っております。

日々の診療では患者様には優しく接するように心がけております。内視鏡検査につきましては清潔であることと苦痛の無いことを心がけております。大腸内視鏡検査では通常の患者様では痛みなど無く検査を受ける事が可能ですが、術後の患者様など希望のある場合には鎮痛剤を使用しています。

自分ではまだまだ未熟者と自覚しており複雑な治療については井上先生の指導のもと修練に励んでおります。

今後ともよろしく願ひいたします。



産婦人科 米谷 直人

皆さん、はじめまして。4月1日より当院に転勤して参りました産婦人科の米谷直人（よねたに なおと）と申します。出身は愛媛県の新居浜市というところ。平成18年3月に徳島大学医学部を卒業後、高知赤十字病院にて2年間の初期臨床研修を行い、その後出身大学である徳島大学の産婦人科に入局し、大学で1年間勤務した後、昨年1年間は徳島県西部のつるぎ町立半田病院に勤務しておりました。

病院は違えど、研修医時代を過ごした思い出深い高知に2年ぶりに戻って参りました。先日市内を懐かしさにふけりながら散策していたところ、高知駅周辺の変貌ぶり（特にK'sデンキ）に驚愕いたしました。しかし徳島とはまた違った独特の暖かい雰囲気はあいかわらずであり、心地よさを感じました。それと同時に朝倉近辺はまた新たな地でもあり、新鮮な気持ちでもあります。

医師としては5年目、産婦人科医としては3年目となります。産婦人科医としてはもちろん医師としてもまだまだ経験の浅い未熟者（新参者、ペーペー、役立たず、邪魔）です。様々な場面で多くの方にご迷惑をかけることになるかと思えます。まだまだ仕事に慣れずに戸惑いながらの毎日ですが、できるだけ早く慣れ、自分にできることを一つ一つ頑張っていこうと思っておりますので、皆さん、どうぞよろしくお願い致します。



研修医 森下 敦司

4月より研修医として勤務させていただくことになりました森下敦司（もりした あつし）です。

大学は徳島大学だったのですが、出身は高知で、実家もすぐ近所にあります（アパートですが…）。高知出身とはいっても、中学・高校と松山で過ごし、大学受験での浪人時代を高松で過ごしたので、貴重な青春時代を他県で送り、気がつけば四国4県を時計回りに順番に暮らしたことになってしまいました。4県全部で暮らすと四国のなかでもそれぞれに良い所・悪い所に気付き、今思えば貴重な体験をしてきたんだなあとしみじみ感じます。ちなみに高知は、おおらかな人が多く、お酒が強い人が多いので楽しい反面、四国から出て行くのにはとても不便で時間もかかるという短所があります。

趣味は学生時代からやっている硬式テニスで、今でも続けています。これから高知県の大会にも積極的に参加していきたいと思っています。とにかくスポーツが好きで、何でもある程度はこなせると自負しております（笑）。

ようやく社会の一員として出発点に立ち、期待と不安の入り混じる中、やる気だけはみなぎっています。色々と迷惑をかける事があると思いますが、精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。

感謝の気持ち



前 看護部長 高橋 幸子

平成20年4月から高知病院でお世話になり、この3月で退職することになりました。2年間という短い期間でしたが、病院の皆様には勿論、院外の皆様にも大変お世話になり、ありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

転勤してきた時の「ほげい船」に、病院近隣の地図が自分の中で整理できていないという内容の記事を書いた記憶がありますが、その後2年間でこの近隣は勿論、高知市内からの地図もバッチリ頭に入り、市内からも迷わずに徒歩で帰れるように成長しました。

また、病院の皆様と、色々な取り組みを通じて多くの事を学ばせていただきました。退職後は高知を離れますが、大好きな高知が第二の故郷になりますので、サポーターとして、今後の高知病院の発展を期待しながら応援していきます。ありがとうございました。

Willセレモニー振り返りと 実習に対する心構え

附属看護学校47期生 大井 真理



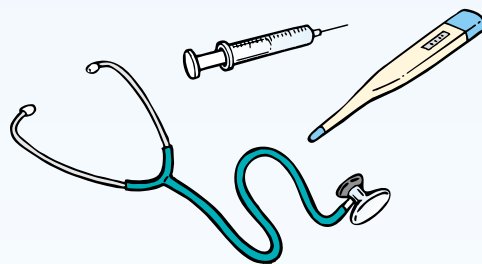
平成21年12月25日、厳かな空気の中、いよいよWillセレモニーが始まりました。Willセレモニーは、看護の本質を考え、自分達の言葉で表明し意思統一をはかる大切な日です。皆の前で誓うことにより、その責任を背負い初めての实習に臨むための決意の日でもあります。4月から47期生として机を並べ勉強し、夏には合宿へ行き、協力し合い、励まし合ってこの日を迎えることができました。そしてこの日を迎えるにあたり、たくさんの方々に支えられ、その協力の元で迎えられたことを決して忘れてはいけなと感じています。

私はあの灯りの中、ナイチンゲールから灯火をいただき身の引き締まる思いでいました。この看護の灯火を絶やさないための一員として私は力を尽すことと、努力し続けることを誓いました。同時に人の健康に関わる仕事を選んだ重さに恐怖感をもったの

も事実です。

入学した頃、私は安心感を与えることのできる看護師になりたいと答えていました。それから9ヶ月の間に些細な変化に気づくことができるようになりたいと考えるようになっていきます。それは患者様に感心をもち、その患者様をよく観察していなければできないことだからです。そしてそこから始まることが沢山あると思えるようになったからです。

私達はすぐそばにある手の他に、様々な他人の手に幾度も助けられながら誰もが生活しています。看護師の手は、苦しい時の支えとなり、痛みを和らげるために差し出される特別な手であると考えています。そしてその手は私の考える技術を習得するものであり、心と手、全身で感じ考える心が持てるように初心を忘れることなく歩んでいきたいと思ひます。



ひなまつり集会



ぽぽてん保育園 岩本香代子



保育園では、季節ごとに様々な行事を行っています。

3月3日には、ひなまつり集会を行いました。

おだいりさまとおひなさまが登場して踊りを披露すると、驚いて固まってしまう子、喜んでニコニコしている子と色々な反応がありました。

2歳児のうさぎぐみのお友だち2人が「踊りたい」と前に出て、おひなさまたちと上手に踊りました。すると初めは驚いて見ていた子どもたちも次第に表情がほぐれ、和やかな雰囲気の中で楽しむことができました。

その後は、おだいりさまとおひなさまの大きなお口に、一人ずつひなあられを食べさせてあげて、楽しみながら、ひなまつりの文化に触れることができました。

昼食では、ほうれん草と卵の着物を着た、おひなさまランチに目をキラキラさせる子どもたち。みんなでおいしくいただきました。



昨年の秋から、事務職員一丸となり禁煙パトロールを実施しています。その日の当番の2名が午前の10時と午後の3時に、院内を巡回します。出入口付近や駐車場、7階の洗濯干場等を重点的に回ります。

パトロール中に喫煙者と遭遇することは少なくなりましたが、タバコの吸い殻は依然落ちています。敷地内禁煙を知らない方もおられるでしょうし、標識に気づいていて吸っている方がいる可能性もあります。私自身もタバコの臭いが苦手なのですが、来院された患者様で、タバコの煙によって嫌な思いをされている方は多くいます。しかし、見知らぬ誰かに注意をするにはためらいがあるでしょう。恥ずかしながら、私も最初は声をかけるのに少し

時間が経つのは早いですね…。採用されてもう2年目になります。昨年は就職1年目ということで、覚えることがたくさんあり、毎日ドタバタしながら働いてました。まあ最近でも状況はあまり変わってませんが…（笑）

ところで高知病院では昨年8月の中旬から禁煙パトロールというものをやっております。禁煙パトロールとは2人組で毎日、朝10時頃～と昼3時頃～の1日2回、院内や屋上・駐車場や敷地内を巡回して喫煙者がいたら禁煙に協力してもらい、吸い殻が落ちていたらバケツに入れて回収します。事務職全員が当番でこない、2回／月くらいの



管理課 庶務係
三崎 一輝

勇気が要りました。けれども、職員が注意を促してマナーを改善していかなければルールは守られないとパトロールを通して強く思うようになりました。



企画課 財務管理係
池淵 芙美

病院は身体を悪くされた人が利用する施設であり、それらの方々に不快にさせてはいけないと思います。火の不始末により火災が発生すること考えられます。タバコをどうしても吸いたいと思う方もおられるかもしれませんが、健康面と安全面の観点からも病院敷地内での禁煙にご理解頂くようよろしくお願い致します。

禁煙
パトロール

ペースで順番が来ます。まあとにかくパトロールの服装は目立ちます。（禁煙パトロール）と黒字で書かれた黄色いたすきをかけ、右手にひばさみ、左手に銀色のバケツを持っているんです。

パトロール中に敷地内でタバコを吸っている人に敷地内禁煙のことをお伝えすると皆さん快く協力してくれます。禁煙パトロール開始当初はけっこうタバコの吸い殻を見かけましたが、最近ではけっこう減ってきている気がします（^_^）

これからもパトロール続けていくんで、よろしくお願い致します。

職員の異動

平成22年 3月15日付 退職
看護師等 看護師 松本 知佐

平成22年 3月31日付 退職
事務等 管理課長 石井 康敬
看護助手 伊藤小夜子
医師 診療部長 元木 徳治
消化器科医師 大塩 敦郎
消化器科医師 佐藤 康紀
外科医師 藤井 正彦
外科医師 辻井 茂宏
耳鼻咽喉科医師 川田 仁美
婦人科医師 西條 礼子
小児科医師 井上 和男
コメディカル 薬剤科長 濱田 道夫
医化学主任 岡崎 将人
看護師等 看護部長 高橋 幸子
看護師長 吉本 妙
副看護師長 片岡 妙子
看護師 久岡千恵美
看護師 箭崎 久美
看護師 松岡 由紀
看護師 佃 真美

平成22年 4月 1日 転出
事務等 庶務班長 中路 達也
(普通寺病院へ)
入院係長 八木 雅生
(福山医療センターへ)
契約係 馬木 悟
(四国がんセンターへ)
コメディカル 副診療放射線技師長 高橋 泰樹
(大島青松園へ)
看護師等 看護師長 細川 明美
(岡山医療センターへ)
副看護師長 岡林 裕恵
(東徳島病院へ)
副看護師長 西本 美香
(高松医療センターへ)
副看護師長 田村 陽子
(四国がんセンターへ)
看護学校 教員 信里ユリエ
(普通寺病院附属看護学校へ)

平成22年 4月 1日付 採用
医師 呼吸器科医師 細川恵美子
呼吸器科医師 阿部 秀一
消化器科医師 板垣 達三

消化器科医師 友兼 毅
外科医師 大塚 敏広
耳鼻咽喉科医師 関田 拓馬
婦人科医師 米谷 直人
コメディカル 臨床検査技師 吉田 慎也
看護師等 助産師 江見 遙
助産師 沖本 王香
助産師 川村祐季江
助産師 西村 有加
看護師 武田さおり
看護師 柏井真由美
看護師 池田 伊代
看護師 池田 和也
看護師 大原さなえ
看護師 門脇 理紗
看護師 久保 友美
看護師 小松 咲希
看護師 坂本 晴佳
看護師 白石亜里紗
看護師 杉本 朋美
看護師 高橋 梨紗
看護師 中平 千夏
看護師 西岡由香里
看護師 西村 拓也
看護師 本間 舞美
看護師 前田 千晶
看護師 松谷 祐樹
看護師 水野 佑香
看護師 森 美沙
看護師 森本 昌
看護師 山内真菜瀬
看護師 山川 華子
看護師 米沢 知華

平成22年 4月 1日 転入
事務等 企画課長 上甲 尚久
(四国がんセンターから)
管理課長 久保田克也
(東徳島病院から)
庶務班長 末久 浩二
(中国厚生局から)
専門職 山下 淳子
(四国厚生支局から)
入院係長 宮地 貴広
(高松医療センターから)
コメディカル 薬剤科長 久保 英治
(南岡山医療センターから)
副診療放射線技師長 新地正美智
(福山医療センターから)
看護師等 看護部長 矢野 糸枝
(徳島病院から)
看護師長 上田 富美
(四国がんセンターから)
看護師長 山根 朱美
(東徳島病院から)
看護師長 山本 三恵
(香川小児病院から)

外来診療担当医表

(平成22年4月6日現在)

■受付時間 8:30 ~ 11:00 整形外科・火曜日は8:30 ~ 10:30 です。 ■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日 ~ 1月3日



独立行政法人
国立病院機構

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

高知病院



診 療 科	区分・診療室番号			月	火	水	木	金
内 科	午 前	1 診	⑫	板垣	稲山・細川	篠原・岡野	町田・阿部	畠山・稲山・細川
		特別外来	⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午 後	専門外来						
神 経 内 科			⑰	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼 吸 器 科 アレルギー科	午 前	1 診	⑧	篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
		2 診	⑥			町田 久典		
	午 後	専門外来					禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消 化 器 科	午 前		⑨	井上 修志	友兼 毅	板垣 達三	井上 修志	友兼 毅
循 環 器 科	午 前		⑦	山崎 隆志	名田 晃	名田 晃	山崎 隆志	名田 晃
	午 後	専門外来					ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			⑩	松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小 児 科	午 前	1 診	①	小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	高橋 芳夫
		2 診	②	武市 知己	山遠 剛	山遠 剛	大石 尚文	山遠 剛
		3 診	③	大石 尚文				小倉由紀子
	午 後	専門外来		アレルギー	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児健診
		予防接種		14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)
外 科	午 前	1 診	⑤	安藤 勤	長堀 順二	佐藤 宏彦	安藤 勤	長堀 順二
		2 診	⑥	大塚 敏広	小笠原 卓		大塚 敏広	小笠原 卓
	午 後	専門外来		安藤 勤 乳腺外来		佐藤 宏彦 ヘルニア・胃腸専門外来	日野 弘之 乳腺外来	
整 形 外 科	午 前	1 診	①	篠原 一仁	兼松 次郎	小林 享	篠原 一仁	久保 貴博
		2 診	②					
脳神経外科	午 前		⑧	新野 清人	新野 清人			新野 清人
	午 後	専門外来		神経超音波				神経超音波
呼吸器外科	午 前		⑦		日野 弘之		吉田 光輝	
小 児 外 科	午 前		⑤		佐藤 宏彦			
皮 膚 科	午 前		⑬	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝
泌 尿 器 科	午 前		⑨	渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊 (奇数週) 大河内(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産 科	午 前		⑮		福家 義雄	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子
	午 後							
婦 人 科	午 前		⑳	福家 義雄		小林 文子		米谷 直人
	午 後							
眼 科	午 前		㉓	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳 鼻 咽 喉 科	午 前		⑰	関田 拓馬	関田 拓馬	植村 哲也	関田 拓馬	植村 哲也
	午 後	専門外来			め ま い		中 耳 炎	アレルギー性鼻炎
リハビリテーション科								
放 射 線 科				小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

※ 内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。